

# 藍那里づくり計画



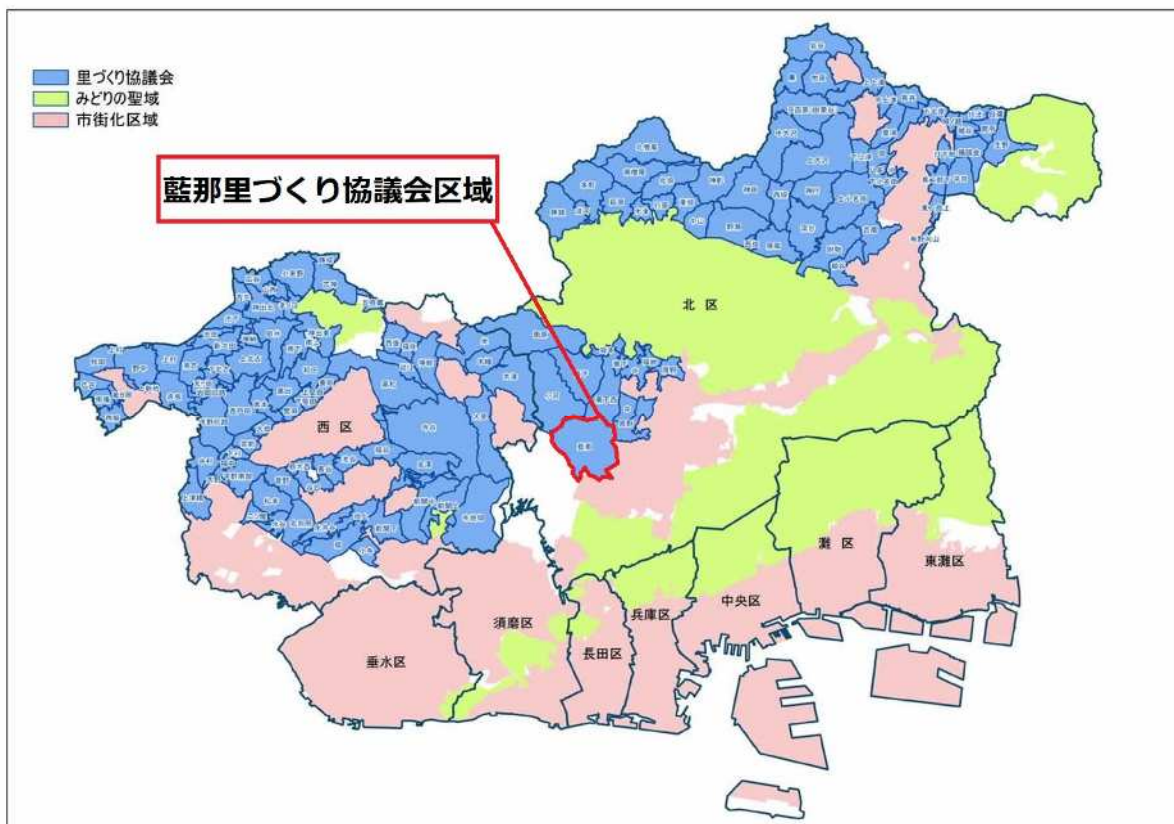
令和4年3月

藍那里づくり協議会

# 目 次

第1章 藍那地区の概要	
(1) 藍那地区の立地条件	4
(2) 藍那地区の人口統計	4
(3) 藍那地区の営農状況	4
(4) 地区の特産品	4
(5) 地区の行事等	5
(6) 地区の伝承等	6
(7) 農村用途区域	9
(8) 地区の問題点及び課題	9
第2章 地区の整備の目標及び方針	10
第3章 農業振興計画	
(1) 学童体験農業の拡充	10
(2) 観光交流の検討	10
(3) 獣害対策	10
第4章 環境整備計画	
(1) 藍那駅前への整備	10
(2) 安全対策	10
(3) 情報通信網の整備	10
(4) 空家の有効活用	10
(5) 災害対策	11
第5章 土地利用計画	
(1) 農村用途区域の設定	12
(2) 土地利用の位置付け	12
第6章 景観保全形成計画	
(1) 農村景観	13
(2) 歴史的景観	13
藍那里づくり計画の策定経過	14

第1章 藍那地区の概要

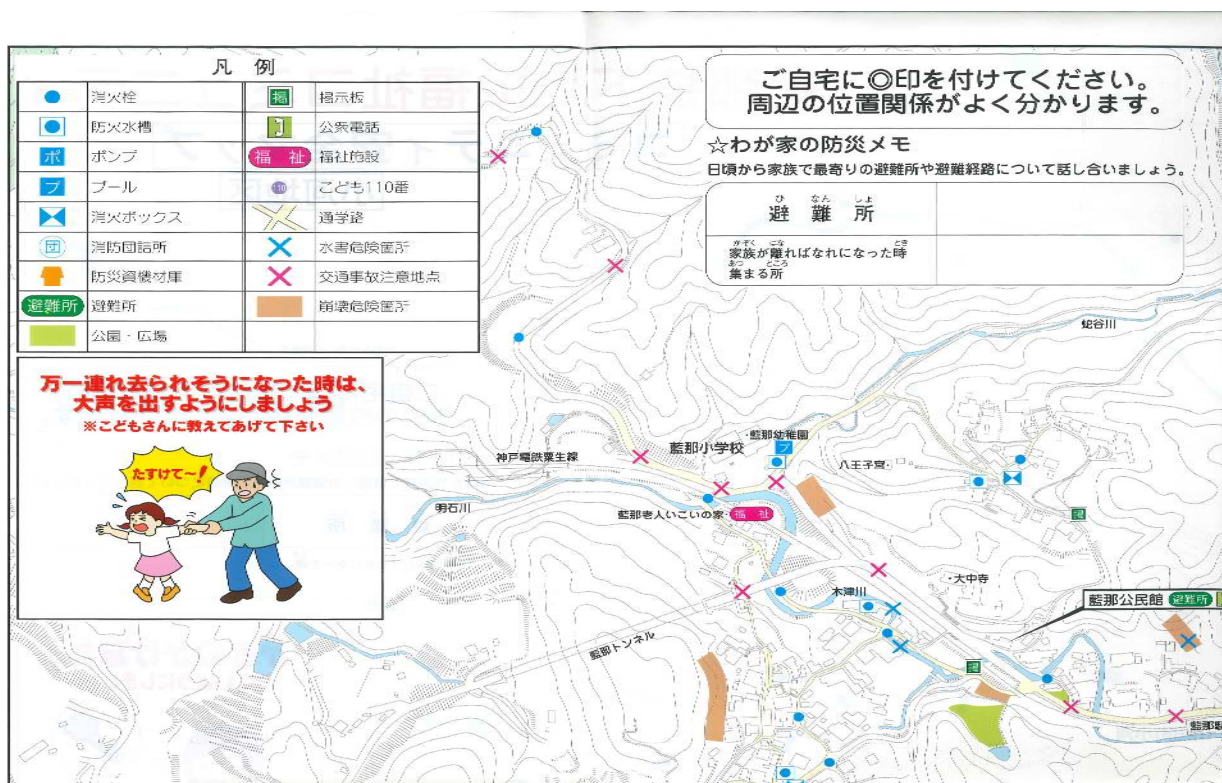




藍那の位置図



大字藍那区域の航空写真



コミュニティ安全マップ

※避難場所は現在 藍那小河地域福祉センター  
(藍那老人いこいの家)

(1) 藍那地区の立地条件

山田町は神戸市北区の南部に位置し、藍那地区は山田町の南部に位置している。地区の北部で小河・東下集落、西部で西区、東部で泉台・北五葉、南部で星和台・しあわせの村にそれぞれ隣接している。

集落内には阪神高速北神戸線「藍那 IC」や神戸電鉄「藍那駅」が位置するなど交通の便は良い。

(2) 藍那地区の人口統計（国勢調査より）

	2005年	2010年	2015年
世帯数	121	116	101
人口	356	386	334

(3) 藍那地区の営農状況（農林業センサスより）

	2005年	2010年	2015年
農家戸数	22	14	10
専門農家	-	1	-
第1種兼業農家	-	-	1
第2種兼業農家	22	13	9
農家人口（人）	33	17	19
農地面積(a)	384	372	346
田	377	357	331
畑	7	7	7
樹園地	-	8	8

(4) 地区の特産品

藍那地区では、昔からヤマモモが自生しており近隣の白川村では奈良時代から都に献上されてきた記録が残っている。藍那では神戸市で初めてヤマモモの品種の栽培が始められたと言われヤスザイ、シナモモ、モリグチ、シラモモ、ズイコウなどの品種が栽培されてきた。

地区内には竹が多く自生しているため、タケノコを使った料理や、竹細工なども制作されてきた。





(5) 地区の行事等

六条八幡神社

旧山田村の総鎮守社である。現在の社殿は1688（貞享5）年の再建。

祭礼：1月19日（厄除祭）、9月第3日曜日（神幸祭）、10月第2日曜日（例祭・流鏝馬神事）



六条八幡神社



お神輿

(6) 地区の伝承等

鴨越

鴨越とは藍那地区のほぼ中央を貫いており、かつて播磨国と摂津国を結ぶ主要な道路であった。沿道には旅籠や茶屋が整備されていた。藍那地区の人々にとって重要な生活道路であるとともに、数多くの人や物が行きかかった道である。

平安時代末期、源氏と平家が覇権争いの合戦を繰り返していた。源義経は一ノ谷（神戸市須磨区）の戦いにおいても平家を下したのは広く知られている。これに際し平家の陣の背後を突き、急峻な裏山を駆け下り急襲した「鴨越の逆落とし」は有名である。





## 七本卒塔婆

藍那駅東方の路上にある。誰が何のために建立したのか謎である。14世紀末（南北朝後期）の建立と推定されている。並んで立っている宝塔もほぼ同時期のものである。



## 徳川道

幕末に西国街道のバイパスとして作られた幻の古道「徳川道」。西国街道で外国人との衝突事件を起こさないために作られた明石から藍那を通り灘へ抜ける道であるが、幕府崩壊後に明治政府により新たな道が作られ歴史の舞台から消えて行った道である。徳川道を唯一バイパスとして使った備前藩の記録が『山田村郷土史』に残っている。

慶応4年正月十一日の事、小部村なる片山陰の田舎に時ならぬ鎧武者の同勢が、しかも六百人といふ大勢が突如として現はれた。村のものどもの恐怖は一通りでなかった。なれども恐ろしいもの見たさの好奇心で、垣間からも戸の隙間からも窺ふておる、鎧武者は何となく意気は沈んでいる、別段村に対して敵意のあるものとも見えぬのでホッと胸を撫でおろした。隊長らしい人が懇懇に庄屋の家を尋ねて使者を出した、其の口上によると、備前岡山藩の御納戸役の一行であるが、此度御用の次第で東上の途中、先発の一隊が神戸にて外国人と衝突の事件が生じた爲めに、止むなく神戸を通過することが出来ないため此の裏道を通るのである。日は暮れ行く手は摩耶の山奥と聞く、夜中の行軍も困難である。御迷惑ながら一宿の儀村中へ頼むとの事であった。漸く鎧武者の正体が分明したので、庄屋年寄村役人は非常召集をやって、一行の宿舎割を定めて、成る丈の厚意を表したしたのであった。



## 八王子宮農村舞台

天津彦根神社境内にある入母屋造り茅葺、明治初年の建築である。藍那は地芝居の盛んだった所で、このほか厳島神社（明治 37 年解体）と釈迦堂にも農村舞台が共存したことがある。現在ほぼ原形を残しているのはこの舞台だけである。



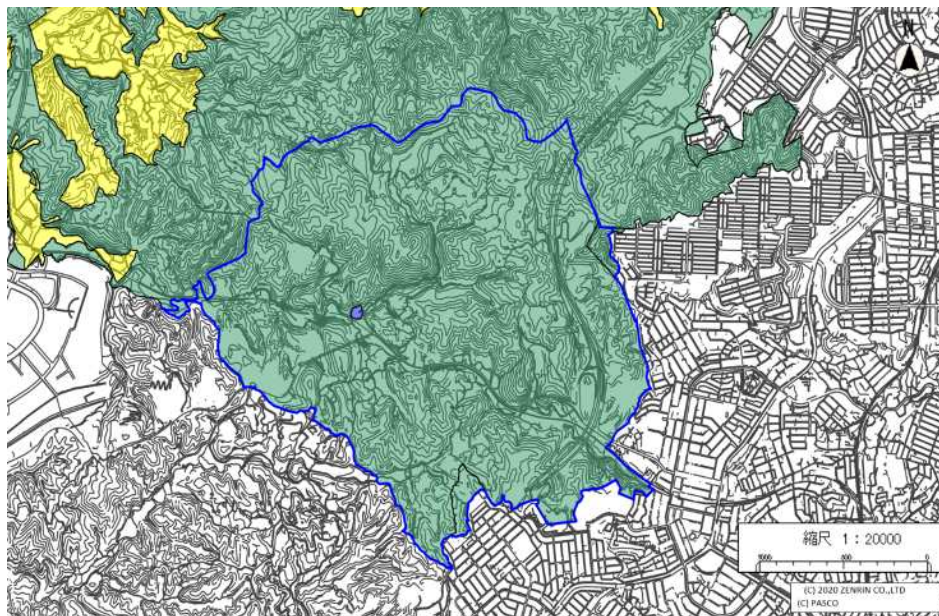
## 藍那小学校

1873 年（明治 6 年）大中寺境内に藍那小学校が開校される。1897 年（明治 30 年）現在地に移転。神戸市内に残る唯一の現役木造校舎。木造校舎の木材は地元から切り出されたものであり、地域のシンボルの一つとなっている。



## (7) 農村用途区域

藍那地区の農村用途区域は、環境保全区域と特定用途 A 区域からなっている。農村用途区域に関し、現在定められている区域設定を変更しないものとする。



## (8) 地区の問題点及び課題

### ①生活環境

地区内の住民が安心安全に持続的な生活を営める環境づくりを行う。藍那駅前の整備をはじめ県道 52 号線などは交通量も多いため、信号の設置など申請を行っていく。今後も随時、住民の意見を聞き取り更なる対策を進めていく。

### ②人口の減少

若者を中心に村外に出てゆき戻ってこない状況にある。高齢化も進んでいるため地区内の人口が減少している。このままでは自治体が成り立たなくなる可能性もある為、地区に新たに居住してもらえる人が出てくるような対策が求められる。

### ③あいな里山公園振興

国のプロジェクトとして行われている公園事業であるが、阪神大震災などによる予算圧縮の影響により、当初の宿泊施設建設予定が実現されていない状態にある。藍那地区は耕作放棄地が多かった為、耕作放棄地を占有する公園事業に参画したが事業が軌道に乗っているとは言い難く、振興策が求められるところである。

## 第2章 地区の整備の目標及び方針

藍那地区の資源を活かして、地域の活性化および安全で住み良い環境づくりを基本目標とし、以下の点を軸に魅力ある里づくりを進めていく。

- (1) 誰もが住みよい持続的な生活環境の整備
- (2) 新たな居住者が増えるような施策
- (3) あいな里山公園を振興するための施策

## 第3章 農業振興計画

### (1) 学童体験農業の拡充

藍那地区では、小学生などを対象とした農業体験が実施されており農業の重要性、自然環境の持続性等を共同作業の中で学ぶなど重要な役割があるので、さらなる拡充を図ってゆく。

### (2) 観光交流の検討

棚田のオーナー制や、有機無農薬の農産物の提供を通して観光交流を図る。  
観光交流には、あいな里山公園事業の活用について検討してゆく。

### (3) 獣害対策

イノシシ・アライグマ等による農産物被害が多発している。電気柵の適切な設置・管理や、被害軽減に向けた対策を行ってゆく。

## 第4章 環境整備計画

### (1) 藍那駅前の整備

土地が無い為、整備は困難ではあるが、地区の利便性を向上させるような整備の計画を行ってゆきたい。

### (2) 安全対策 信号の設置 監視カメラの設置

主要地方道である県道52号線は交通量も多く、わき道からの進入車との衝突事故も過去に何度も起きているため信号の設置を申請して行く事とする。藍那小学校付近には監視カメラが導入されているが、住民の安全対策として更なる監視カメラの導入を検討したい。

### (3) 情報通信網の充実

リモートワークなどの就労形態の増加が予想されるため、神戸市内からのアクセスもよく自然豊かな環境での居住を望む方などが、リモートワークなどの形で地区内で就労できるような情報通信網環境を整備してゆきたい。

### (4) 空き家の有効活用

空き家が増えているため、新たに居住して頂きやすいような環境整備を行いたい。



(5) 災害対策

藍那集落の居住エリアは土石流危険溪流に挟まれるような形状になっており、その大部分が土砂災害警戒区域に含まれている。

また、集落内のため池が老朽化しており、決壊の危険性もあるなど、豪雨の際には土砂災害の恐れが高い地域となっている。防災対策として、今後、ため池の利用状況を把握し、必要に応じて補修・廃止するなどの対策を検討していく。

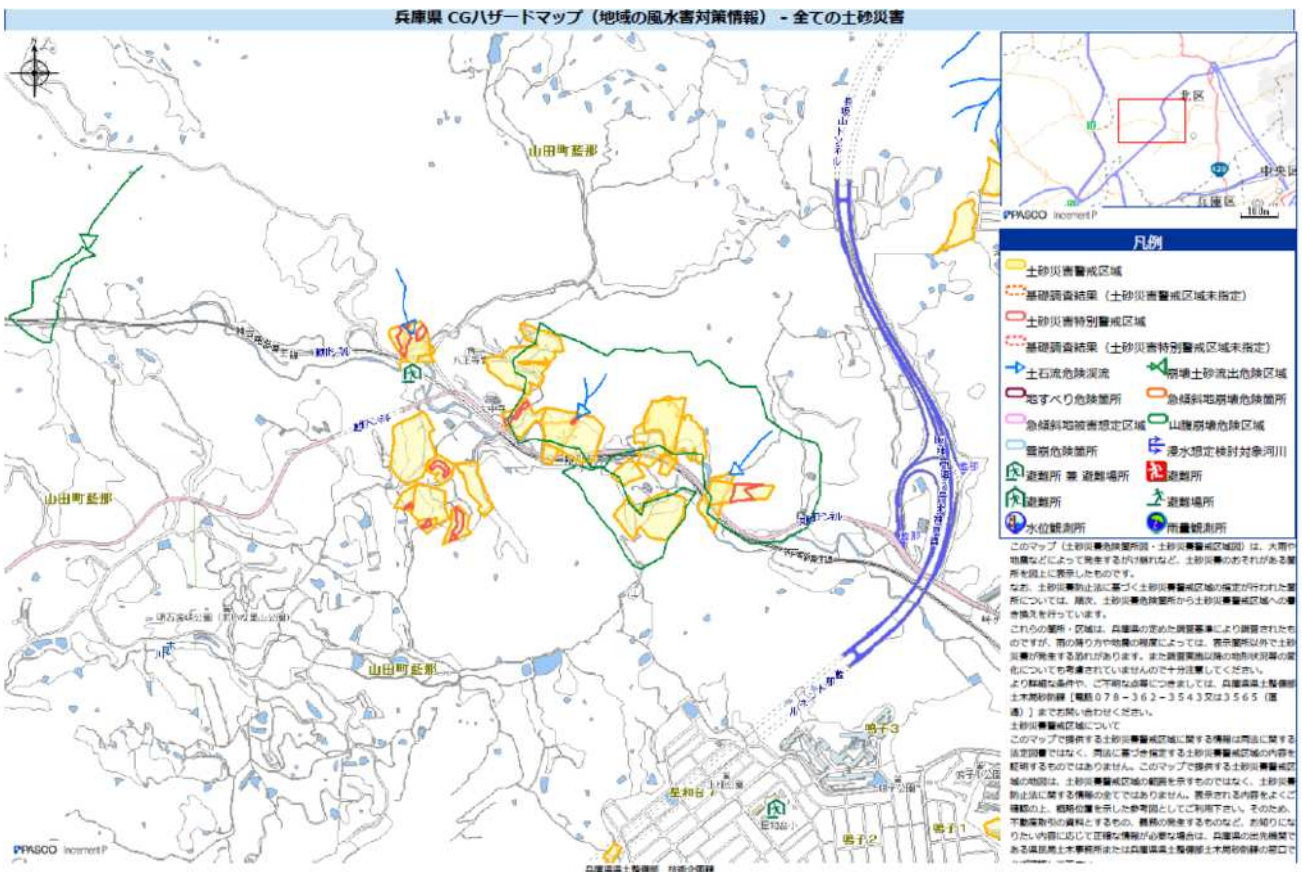


集落のため池

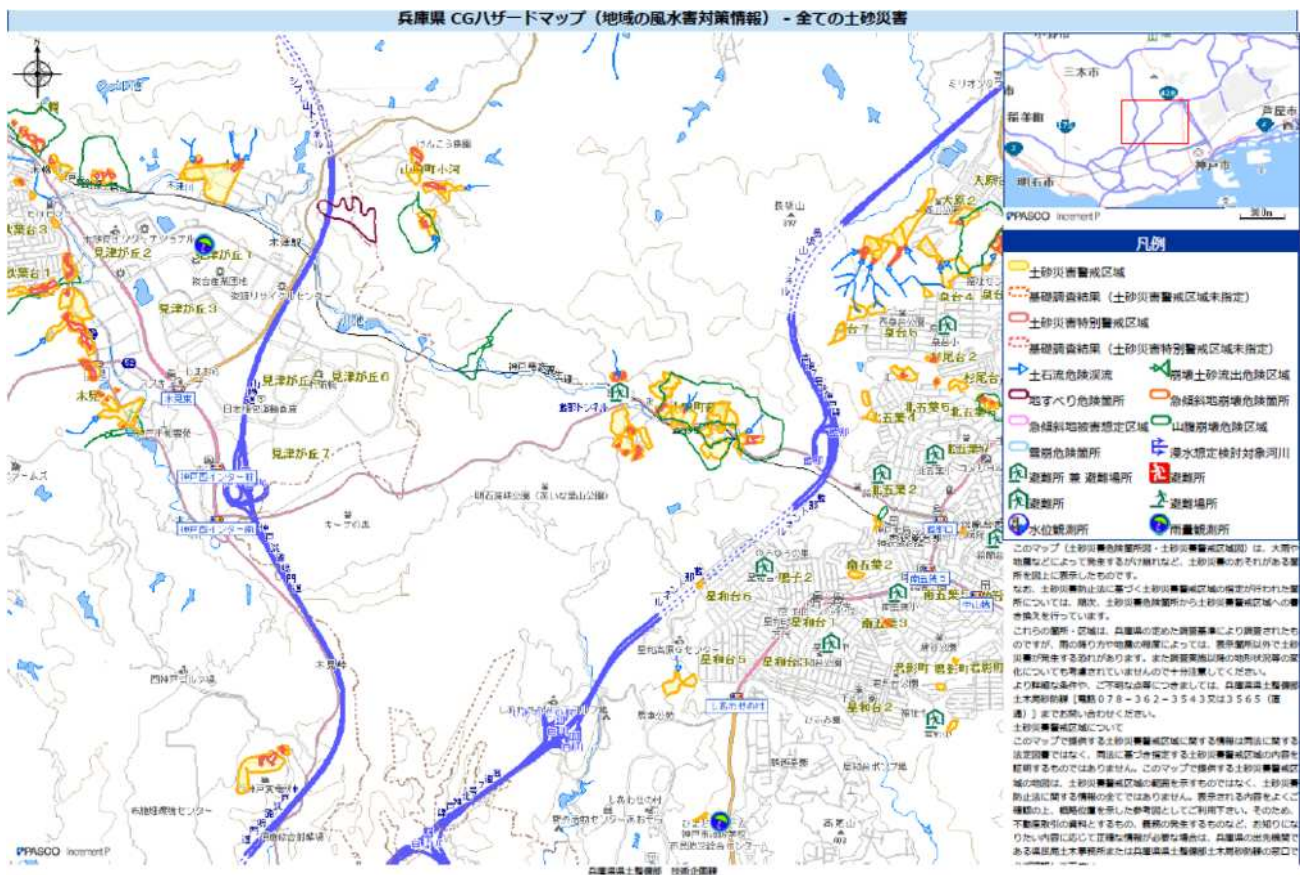
そのほか、既に取り組んでいる活動では、災害時の緊急対応に自治会の連絡網を活用して住民同士で安否確認を行ったり、消防署等が定期的に行う防災訓練に自治会として積極的に参加するなどし、集落全体で防災意識を高めている。

課題としては、避難場所が集落から離れた藍那小河地域福祉センターとなっており、天候が悪化してからは避難が困難という点である。

実際に平成 27 年度の台風の時には土砂災害により集落が孤立したことを踏まえ、今後は、適時適切な避難行動ができるよう、集落全体で対策をしていく必要がある。



藍那付近のハザードマップ（出展：兵庫県ハザードマップ）



藍那全域ハザードマップ

## 第5章 土地利用計画

### (1) 農村用途区域の設定

農業地域の環境や景観に配慮した秩序ある土地利用を計画的に進める。

秩序のある土地利用を計画的に推進し、農村らしい景観の保全及び形成に努めることが大切であり、法令を遵守して活性化を推進していく必要がある。

### (2) 土地利用の位置付け

以下の土地利用を当里づくり計画に位置付ける。

利用	位置・面積	神戸市北区山田町藍那字太々谷 5 番 22 29 39 番 1… 計 853 m <sup>2</sup>
農村用途区域	環境保全区域	
用途の概要	廃車解体場・資材置場・駐車場	

## 第6章 景観保全形成計画

(1) 農村景観

藍那里山協議会、自治会によって地域内道路、河川周辺、山道等のクリーン作戦を展開し、可能な場所への植樹やひまわり・コスモスなどの栽培を検討する。

(2) 歴史的景観

八王子宮農村舞台 釈迦堂農村舞台などとともに藍那小学校を歴史的文化財として守り農村風情のある集落景観を保全していく。





藍那里づくり計画の策定経過

日時	場所	協議事項	参集者
令和3年10月28日	藍那公会堂	藍那里づくり計画について	藍那里づくり協議会 2名 土地利用事業者
令和3年11月7日	藍那公会堂	藍那里づくり計画(案)について	藍那里づくり協議会 2名 土地利用事業者
令和3年12月5日	藍那公会堂	藍那里づくり計画(案)について	藍那里づくり協議会 2名 土地利用事業者
令和3年12月23日	藍那公会堂	藍那里づくり計画(案)について	藍那里づくり協議会 2名 土地利用事業者
令和4年1月7日	回覧	藍那里づくり計画(案)の周知	藍那里づくり協議会
令和4年2月4日	藍那公民館	藍那里づくり計画の承認について(書面決議)	藍那里づくり協議会 2名
令和4年3月3日	藍那公民館	藍那里づくり計画について	藍那里づくり協議会 2名 土地利用事業者